



はじめに

委員長 河内 美代子

皆さん、こんにちは。お元気ですか？

今年の梅雨は九州地方などに甚大な被害をもたらし、自然の脅威を再認識させられますね。地震・台風・大水など災害はいつ、どこで、どのような規模で発生するか予測のつかない事も多く、事前の安全対策や災害時の対応の重要性と言われても中々、十分にはできない事も多いですね。皆さんの周りの環境は大丈夫ですか？

さて、今回のらくだはまた、一つの節目になる号となりました。この二年間女性委員会は、「女性会員は原則として女性委員会所属」で活動して来ましたが、今回、改めて一人一人に参加の意思確認をし直し、新たに活動開始することになりました。

別添で「女性委員会参加申込書」を同封しましたので、委員会活動に参加したいと思われる方は是非申し込んでください。詳細は申込書をご覧ください。不明な点などがある場合は、建築士会事務局まで(又は委員長へ直接でもいいです)問合せてください。

今回の記事

- 今後の予定・お知らせ
- メーリングリスト
- 第1回女性委員会議事録
- 東海北陸ブロック会女性建築士協議会平成15年度前期定例(石川)会議の報告
- 建物使い心地調査について
- 平成15年全国女性建築士連絡協議会
- ミニ研修会(換気設備勉強会)報告
- 平成15年度(東海北陸ブロック会後期)岐阜大会について
- 編集後記

添付資料

- ◆女性委員会参加申込書
- ◆建物の使い心地度調査

■今後の予定・お知らせ

- ◆ミニ研修会 or 見学会(9月予定)  
決定次第お知らせします。
- ◆第24回建築文化講演会  
平成15年10月11日(土)pm2:00~4:00  
ソフピアジャパン(大垣市)セミナーホール  
講師:面出 薫氏  
テーマ:「建築照明と作法」
- ◆ぎふ木造塾'03  
第3回 9月13日~14日 白鳥町見学会  
第4回 10月4日 13:30~ふれいあい会館

■メーリングリスト

メーリングリスト(ML)を活用することにより随時双方向の情報交換ができます。1人でも多くの方にご参加いただければと思います。



メーリングリスト(ML)参加申込はこちらへ

住所、氏名、アドレス記入の上、担当:榎本さんまで  
[vandm.masumoto@nifty.ne.jp](mailto:vandm.masumoto@nifty.ne.jp)  
TEL 0584-82-8667



## ■ 第1回女性委員会議事録

- ◆ 日時：7月22日(火) 12:00~14:00
- ◆ 場所：県民ふれあい会館 男女共同参画室
- ◆ 出席者：河内、飯沼、堀、松村、長瀬、宇佐美

### 議 題

- 今年度の役割担当について
  - ・今年度の事業計画は発行済だが、改めて、1人1担当以上担当する
  - ・申込書に記入の上、土会事務局へ返送。(※「らくだ9号」にて添付)
- 「らくだ」9号の発行について
  - ・8月上旬に発行予定
  - ・掲載内容の確認と原稿の依頼 (tel、mail等)
  - ・9号は今まで同様に発送するが、次号の発送については再検討する
- 研修会について
  - 内容：改正建築基準法に対応した換気の講習会
  - 日時：7月25日(金) 16:00~17:30
  - 場所：松下設備システム(株)岐阜支社
- 平成15年度後期ブロック岐阜大会開催について
  - 日時：平成16年2月28日~29日
  - 場所：ホテル グランヴェール岐阜
  - ・青年・女性委員(準備委員)で準備委員会を作り、随時委員会を開催
  - ・事業発表(石川県)以外は、基本的に青年委員会と合同で行う
  - ・オブザーバーでの、女性委員の多数に参加のお願い。
- 今後の事業計画について
  - ・委員会の開催は2ヶ月に1回程度とする
  - ・メール上での委員会開催は適宜行い、その場合議長を飯沼さんをお願いする
  - ・事業等の進捗状況の報告・検討等できる限りメーリングリストの活用。
- 「建物の使い心地度調査」について
  - ・調査票を「らくだ」9号に同封する(各自2枚)
  - ・調査票に従い、皆さんに調査をお願いする
  - ・調査は、県内の公共建築物に限定する
- 女性委員会メーリングリストについて
  - ・新メンバー(女性委員会委員)で構成する
- その他
  - ・事業計画書を改正、再度提出して委員会活動のCPD申請をする
  - ・女性委員会に参加申し込みされた方については、支部推薦を受けた後委員として活動して頂きます。

## ■ 東海北陸ブロック会女性建築士協議会

平成15年度前期定例(石川)会議の報告

- ◆ 日時 平成15年6月21日(土)13:30~14:45
- ◆ 会場 石川県立音楽堂
- ◆ 参加者 ・委員長：河内 ・運営委員：榎本 ・ブロック事業委員：松村

会議には愛知5名、富山8名、三重5名、福井3名、石川18名、岐阜3名。計42名が参加し開催された。各県女性委員会(部会)、連合会女性委員会、ブロック事業委員会青年協議会定例会議出席、ブロック会議(本会)出席の報告があった。

女性建築士協議会后、青年建築士協議会(15:00~17:00)、懇親会(18:00~20:00)に合流し、各県との交流を深めてきた。



ブロック会議風景

## ■ 建物の使い心地度調査について

(第1回プレ調査を終えて)

6月14日(土)に岐阜市内の県民ふれあい会館にてプレ調査を行いました。(男性1名、女性7名参加)チェック項目を増やした方が良い、表現の方法、男性の視点が抜けている等のご意見を頂きました。また、2003年と2004年は岐阜県内の公共建築物を対象に調査を行うことになりました。

6/22の女性委員会でも調査表の修正を行いました。今回、調査表を同封致しますので、各自でお使い頂きまず、調査表の使い心地をお知らせ下さい。その後、本調査(9/1~)に入りたいと考えています。

「調査表」使い心地のご意見

<締切り> 平成15年8月20日

<送り先> 建築士会事務局 FAX058-266-6867



## ■平成15年全国女性建築士連絡協議会報告

(参加者:河内、松村、津川)

テーマ「地域と共生する住環境づくり」

～復興都市から考える「まちとくらしの未来像」～

◆日時:平成15年7月11日(金)～12日(土)

(於:神戸市兵庫県民会館)

◆参加者:297名(各県委員長46名、オブザーバー222名、来賓、講師、連合会委員ほか29名)

主催挨拶 連合会副会長 松田 順吉氏  
 来賓挨拶 兵庫県知事 井戸 敏三氏  
 後援挨拶 人と防災未来センター副センター長 深澤 良信氏  
 委員長挨拶 連合会女性委員長 小谷部育子氏

&lt;兵庫県 井戸知事の挨拶の一部をご紹介します。&gt;

まず、8年前の震災にはみなさんから助けて頂いたことにお礼を述べられる。

住宅に関して県では公営住宅3万戸を供給してきた。

しかし、高齢者は「まち」に慣れない。

避難所→仮設住宅→現在の住まいと環境が変わっている。震災を体験し「人と人とのつながり、支えあい、結びつき」に気付いた。これから、マルチハビテーションのスタイルも考えていくべきではないか。

## ■入手資料一覧

- ・兵庫県女性部会発行「20周年記念誌」\*
- ・兵庫県の防災対策(パンフレット)\*

## ■全体会資料

- ・全国女性建築士連絡協議会プログラム
- ・地域と共生する住環境づくり調査報告書(各県女性建築士へのアンケート結果)\*
- ・災害復興まちづくりから学んだこと(パネラー資料・・・小林郁雄氏)
- ・4床室から全個室・ユニットケアへ(パネラー資料・・・市川鈴禮子氏)
- ・復興の草の根検証ワークショップと復興公営住宅コミュニティ全数調査から見えてきたもの(パネラーレジュメ・・・立木茂雄氏)
- ・専攻建築士制度と継続能力開発(CPD)制度の狙いと制度設計(2003レポート)\*

\*印は冊子

(各資料を読みたい方は事務局までお申し出下さい)

## ■[アンケート報告]

「地域と共生する住環境づくり」アンケートが都道府県建築士会女性委員宛に150通配布され回収率92%の調査報告があった。

今年度の全国女性建築士連絡協議会は兵庫県開催である特徴を考慮し災害時女性建築士は地域でどのように貢献することができるか。そのためには日常業務の中でどのような努力が必要かを問うものとなっている。

地域と共生する住環境づくり調査報告書にある概要を以下に述べる。

1) 木造住宅耐震診断員の資格を持っているのは回答者138人のうちわずか16人、この資格が現在住んでいる地域にあるのかどうかを認識していないものが半数というのが現状でまだ浸透していないことがわかる。一方、応急危険度判定士については認識度も高く5割がこの資格を所持している。しかし資格を持っていても模擬訓練等を行っているものは3割しかなく災害時に活かせるかどうか疑問が残る。

2) 震災後建築士は防災に対して様々な面で配慮をしている。しかし仕事を通じてユーザーの防災への関心が薄くなっていると感じている建築士の多い事も事実で、安全確保のために苦勞していることが伺われる。その上ボランティア活動に対する会社の無理解の声があり普及活動の必要性をアピールしたい。

3) 震災後の防災面での実績については、新築・改修共に住宅が多い。しかし住宅以外でも数こそ少ないが具体的実績報告があり、女性建築士の幅広い活動に拍手である。

4) 防災対策あるいは災害時の対応について社会的関わりについては、建築士会の活動が多くセミナー・講習会への参加が大半である。建築学会等他団体での活動は1割に満たないのが現状である。ボランティアの活動経験から建築士は職能を活かし活動すればまちづくりのリーダーになりうるとの感想もあり、今後の積極的は取り組みにつなげたい。

5) 災害に強いまちづくりについての今後の取り組みについては、11項目を例に挙げてアンケートをしたが、これはすべて当然必要なことというのが回答と受け止めた。その他として沢山のご意見が寄せられ、取りまなければならない問題が山積みと結論する。

6) 防災・災害に関する建築士の責任を果たすという姿勢と責任を問われる事への対応どちらも同じ比重で大切にしていることが解る。ますます複雑化していく業界にあつてクライアントに安全性確保のための技術的理解に務めることはもとより設計業務上・施工業務上万一起こったトラブルに対しても、3者納得できる解決をする為にはそれなりの体制づくりが必要になる。

※『地域と共生する住環境づくり調査報告書』(各県女性建築士へのアンケート結果)冊子は事務局にありますので読みたい方はお申し出下さい



## ■ 講演

## ◆震災復興まちづくりから学んだこと

小林郁雄氏(コー・プラン代表)

&lt;震災復興を支えた力&gt; 自立と連帯

&lt;震災復興の教訓&gt; ふれあいとつながり

・「都市計画」は制度「まちづくり」は運動

・参画協働の現場主義 市民まちづくり(環境改善運動)の鍵を握るのが「まちづくり協議会」である。逆にいえば、まちづくり協議会は自らのまち自律圏としての活動こそその存在意味をもたねばならない。震災復興でその意味が確かめられたまちづくり協議会が継続・発展していかなければならない理由であり、「市民まちづくり」にはたす責務は大変大きい。参画協働社会は、地域に主権があり、情報を共有することが、必要不可欠である。

地域の主権を支えるのは現場主義である。情報の共有は細部へのまなざしに他ならない。

## ◆復興の草の根検証ワークショップと復興公営住宅コミュニティ全数調査から見えてきたもの

立木茂雄氏(同志社大学教授)

震災後、復興公営住宅について語られてきた言説①

多くの高齢者が、元々住んでいたところから引き離されて、全く別の土地で生活をはじめなければならなかった。

震災後、復興公営住宅について語られてきた言説②

小規模公営住宅団地ほど、顔の見える関係が形成されやすく、コミュニティ活動が活発である。

震災後、復興公営住宅について語られてきた言説③

LSAや見守り推進員などの外部支援者の働きかけによってコミュニティ活動が活性化する。

震災後、復興公営住宅について語られてきた言説④

復興公営住宅で取り組まれてきたコミュニティ形成のための様々な取り組みは、今後の少子超高齢化社会でQOL(生活の質)を高める対応策について検討する壮大は社会実験だった。

くわしくは [www.tatsuki.org/](http://www.tatsuki.org/)

## ◆4床室から全個室・ユニットケアへ

市川禮子氏(社会福祉法人尼崎老人福祉会理事長)

法人の理念と運営方針

理念はノーマライゼーション

運営方針は「人権擁護」と「民主的運営」

理念に基づき現在運営されている苑の具体的はお話を聞く。

とびっきりのふつうの生活・自己実現をめざしてケアとは生命と生活を発展させること。

人生の最終章こそ心ゆたかに。

(入居されている方の笑顔の写真が印象的でした。)

## ■ [パネルディスカッション]

## ◆テーマ

「復興都市から考える『まちとくらしの未来像』」

## ◆コーディネーター

小林 郁雄氏(コー・プラン代表)

## ◆パネリスト

立木 茂雄氏(同志社大学教授)

市川 禮子氏(社会福祉法人尼崎老人福祉理事長)

有村 桂子氏(㈱いるか設計集団代表取締役)

青田 良介氏(兵庫県企画管理部防災局防災企画課長補佐兼防災第2係長)

小谷部育子氏(連合会女性委員長)

講演者以外の3名が個人の活動についてお話をされた。

有村 桂子氏(㈱いるか設計集団代表取締役)

住民の生活を守ったのは地域コミュニティ。

自力で立ち上がる住民とゆるやかな連携。

異人館に住みつづける方のこだわり。

水害、第2次世界大戦、震災と3度の危機から

復興したご婦人に励まされたこと。

復興第1号マンションとなったご自宅のあるコミュニティの現在。

など震災を体験した設計者の立場で活動。

青田 良介氏(県防災局防災企画課防災第2係長)

行政の立場から防災に対する取り組みについて。

小谷部育子氏(連合会女性委員長)

女性建築士がどのように関わることができるか。との問題提起。

みなさんのお話から災害があっても行政が動ける範囲は限られている。

まずは人と人との「ふれあい」「つながり」というキーワードが出された。

## ◆ [建築士会CPD制度、専攻建築士制度]

小黒利昭氏(専攻建築士制度推進特別委員会副委員長、建築士継続能力開発示度運営委員会委員)

二つの制度について説明があった。

(報告:松村)





## ■全国委員長(部会長)会議

H15.7.12(土)8:00~9:00(ワシントンプラザホテル)

参加者:委員会のない静岡県を除く46都道府県女性委員長(部会長)及び連合会役員12名と事務局2名

早朝の僅か1時間弱の会議であり(全体会等のスケジュールが一杯でこの時間だけしか現状では難しいため)、報告形式が大半をしめ、今後の会議のあり方に課題を残したが、予算上の制約もあり難しいとのこと。

1. 第46回建築士会全国大会宮崎コラボレーションについて・・・みなさん、来てくださいと熱いラブコール
2. 組織・財政ビジョンについて・・・アンケート提出予定
3. 今回会議のアピール(案)について・・・修正があったので後日決定したアピール文を送付予定
4. 平成16年度全建女(東京)開催について  
H16.7.16(金)~17(土)(建築会館ほか)  
テーマ:「地域と共生する住環境づくり」  
ー美しいひと、まち、くらしー
5. 平成17年度全建女開催地候補・・・長野or香川
6. その他で建築士会の夫婦会費が話題となった・・・  
福島県では3000円引き実施など

## ■分科会報告

### ◆A 分科会「防災・まちづくり」:レジュメのみ

#### <水害常襲地帯とまちづくり>

コメンテーター/白尾裕子(鹿児島士会)

全国でも有数の災害常襲県である。1993年には8.6水害と呼ばれる災害で121名の人命が奪われた。シラス土壌という水に脆い地層形成のため災害を大きくする。

行政では防災調整池の設置基準の強化や床上浸水対策特別緊急事業等に取り組んでいる。

しかし、工事が終わってみると、川岸には以前あった樹木はなくなりコンクリートの側溝となり建物の多くは1階をピロティとした高床式構造に変わっている。

川も街なみも親しみが感じられなくなっている。各家庭には雨水貯留槽を設置するよう鹿児島市が補助金を出して普及につとめている。

自主防災組織については災害慣れして危機意識が低くなっている。又、少子高齢化・リーダーとなる人材不足等があり、組織を作ることには多くの困難がある。

災害を忘れないように各々の立場で呼びかけがある。建築に携わる者として何が出来るかを改めて考えてゆきたい。川が災害をもたらす厄介者ではなく、地域住民に潤いをもたらす親しみある川になることを願っている。とまとめられた。

(参加者の意見)

建築士会として防災についての取り組みをしている所は少ない。

自分達で行動を起こさなくては前進しない。

### <復興まちづくりと人材ネットワーク>

コメンテーター/山本和代(兵庫士会)

1. 震災復興まちづくりでの活動(関西建築家ボランティア)
    - ・ 避難所での建築相談
    - ・ 魚崎地区密集市街地整備促進事業策定調査、空き地調査、マンション調査
    - ・ 戸立て住宅設計のほか土地に関する複雑な問題のある事業への取り組み
  2. 持続できるまちづくり  
(住吉浜手まちづくりの会/まちづくり協議会への支援)
    - ・ 後世へ良い環境を残すため。
    - ・ 多世代交流のまちづくり
    - ・ 緑を共通言語とした活動
    - ・ 都市間交流、都市農村交流
  3. ネットワークとまちづくり活動(プランナーズネットワーク神戸)
    - ・ 建築家、まちづくりコンサルタント、デザイナー、ライター
    - ・ 近代建築愛好家...異業種の集まり、緩やかなネットワーク
    - ・ グループワークでのプロジェクト参加
- ★全てがボランティアではなく業務としても行っている。震災を通して具体的で活発な活動報告がされた (松村)

◆B 分科会「環境共生」:レジュメ、千葉県女性委員会発行「平成13・14活動報告」\*熊本県作成資料、兵庫県作成資料:熊本では保健所と一緒に勉強している。地域ごとに環境共生は違い、マニュアルは危険

◆C 分科会「健康住宅」:レジュメ、徳島県作成資料、平成15年7月1日よりシックハウス対策のための改正基準法施工に伴い化学物質を踏まえうえて健康住宅というものを話し合う

<居心地の良さを求めて>コメンテーター/林裕子(徳島士会)  
テーマ 徳島県の気候 南海地震・台風の通り道・豪雨・日差し対策を考えこの問題点が住宅に及ぼす影響を軽減しどこまで出来るかローコスト&健康住宅  
豪雨対策 雨の音を消す為瓦葺(高分子樹脂繊維瓦)+野地板厚30ルーフィング2重貼り 深い庇  
日差し対策 深い庇 掃きだしのみ複層ガラス  
屋根断熱及び通気:野地板厚30+スタイロフォーム厚20+空気層+換気瓦

外壁断熱及び通気:外断熱縦胴縁+横胴縁=2重胴縁  
地震対策 ベタ基礎

健康仕様 杉を現しにした構造材

杉:防虫効果・乾燥効果・アロマ効果

外壁:漆喰・杉板+オスモ塗装 内壁:Jパネル単版厚12+オスモ塗装 珪藻土クロス

床:オスマイン材 柔らかいが足の疲れ軽減

建具:全て引戸採用により隙間を持たし自然換気



心の健康 空間構成として家族が一緒にいるところ、家族の気配を感じることに出来る空間作り 引篋もりの出来ない住宅=心の健康

ローコスト シンプル形状・構造材の加工プレカット・単一材料の使いまわし・工期短縮・木材一発注・J パネル採用・衛生機器・照明器具のシンプル化・珪藻土クロス

完成結果 建築費 44坪 実行予算 坪あたり38万円(外構含む) <健康住宅研究会>

コメンテーター/藤田佐枝子(大阪士会)

今年度は 毎月 勉強会を中心に、会員相互の情報交換や、勉強会のまとめや用語解説集作りができるよう計画を立てた。内容として、エコクロス・ドイツエコツアー参加報告・屋上緑化・畳・炭・自然塗料(ターナー)・皮膚科から見たシックハウス問題である。

用語解説集については、例会時間内では検討が難しいので、実行委員会形式で 別に日を設定し 内容においては、例会やメールで報告した。

一例として「ヨーロッパにおける規制による空気室質確保政策」サルフェイト氏(ドイツ)

建物を健康住宅にする為には、統合化されたシステムによって建てられなければならない。

統合化システムとは、1・設計 2・建設 3・建材メーカー 4・建て主。

この 4 つがバランスよくそろわないとヘルシーな住宅は完成しない。居住者にとって定期的なメンテナンスチェックができるようなガイドラインが必要であり、設計から建設、建材メーカー、建て主までが共通の目的を持って総合的にバランスのたれた配慮が必要である。

参加者よりの意見交換内容

1・化学物質過敏症の人には、自然素材がよいが、杉・桧の無垢材にもホルムアルデヒドはある。産地によっていろいろな杉・桧の香りが違う。においのやさしいものが化学物質が少ない。

2・メーカーの出すデータは、必ずしも信じ難いので良く注意すること!

参考資料

健康で安全な住環境を「天然材を生かして」

☆接着剤を使わず日曜大工で床や壁に取り付けら杉や桧の内装材を開発

もくの会 事務局 TEL&FAX 06-6615-5117  
<http://www2u.biglobe.ne.jp/~mokunoka/>

☆EG—I パネル国産無垢材使用の簡単施工壁パネルで乾燥材のパネル化により安定した品質を確保の有害な接着剤を使用していない健康仕様

☆やすらぎフロア 杉 1950x150x30

ホームアイ住まい環境研究室

<http://www5e.biglobe.ne.jp/~home-ai>  
TEL&FAX 06-6615-5117  
(津川)

◆D 分科会「建築士制度と士会活動」:レジュメ、CPD、専攻建築士制度に関する資料:CPDの単位の認定方、公的団体の基本的認める。調停委員などは実務。

◆E 分科会「歴史的建造物の保存と開発」:レジュメ、青森県作成資料:青森県では S6年の建物で分科会をおこなったが、寒さ対策も考え、建物を守る。何故残すのかと言う学術的な裏づけも必要

◆F 分科会「子供・住環境」:レジュメ、福井県作成資料:理想の児童会館とはどんなもので、建築士はそれにどのようにかかわっていくのか。建築士のかかわりが多面化してきたのでハードとソフトのかかわりが必要

◆G 分科会「高齢者会」:レジュメ、神奈川県作成資料(住宅改造の実態調査)

行政で対応できない部分もあり、民間の役割も必要。福祉との連携も必要で知識を得るために 福祉住環境の資格を取る。現場をよく見て現場の意見を良く聞く!

◆H 分科会「集まって住む」:レジュメ、兵庫県作成資

コメンテーター:野崎 瑠美(兵庫士会)

—日本型コレクティブハウス(協同居住)の模索— 兵庫では、7ヶ付き仮設住宅(地域型仮設住宅)で高齢者が安心して暮らせたのを教訓に、震災復興型コレクティブハウスに始まり、今、又新たに多世代型の協同居住が取り組まれている。

■高齢者支援型協同居住「ココライフ魚崎」

規模:敷地 278 m<sup>2</sup>、RC4F 建て、述べ床 565 m<sup>2</sup>、1Fに台所・食事室を含む交流室・職員室・浴室・便所・グループハウス4室。2~3階はコレクティブハウスとしての位置付け 30~60 m<sup>2</sup>の分譲住宅6区画、4階に被災した土地所有者住宅 60 m<sup>2</sup>。

LSA:グループハウスの介護をする NPO が 1階に常駐し、上階の住人へのサポート体制もある。事業形態:総事業費(約 1億 6千万円)のうち災害復興基金関連から 4000 万円の補助があり、共有スペースの負担が軽くなった。土地は 50年の定期借地法。

■多世代型協同居住「芦屋 17°C」

(コレクティブ・エコロジー・コーポラティブの混合)

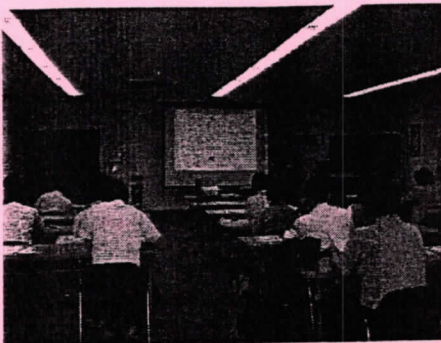
規模:敷地 650 m<sup>2</sup>、RC5F 建て、述べ床 1900 m<sup>2</sup>、1Fに台所食堂を含む交流室・図書コーナー・和室・多目的室などの共有スペースが約 170 m<sup>2</sup>、上階は 50~100 m<sup>2</sup>の多様な分譲住宅 17 戸。緑あふれる庭や屋上庭園設置。LSA: NPO を設立し、安心の住まいを実現(市の支援事業で管理人を兼ねた LSA の常駐費用がまかなえる)入居者の特徴:多世代入居者...30代の家族(幼児有り)、30~50代 独身、50~70代家族。17戸のうち 11戸入居中。事業形態:総事業費約 6億 2千万のうち震災復興基金からは 1800万円のみ。各住戸の負担価格は 2500~5400万円(土地は分譲、区分所有)



## ■参加者による意見交換

- ・共有スペースに公的資金が入ると負担は軽くなるが、地域にオープンにしなければならず、外部の人が入ってくることに對する賛否両論
- ・コーディネーターの存在が大切…まちづくりの観点からもっと社会的評価が与えられるべき
- ・適正規模は20～30戸くらい
- ・高齢者ばかりの入居は問題。同時に年をとり、助け合いが出来ない
- ・外部からのヘルパー(LSA)はいた方がよい
- ・地域で支える、家族で支えるがまだ60%くらいあるが崩れてきている。シングルも欧米並みに増加
- ・入居の必然性・入居のメリットが大切や重要性を説得
- ・事業費を軽減できる助成金制度が兵庫県しかない
- ・コレクティブを住まいの形として普遍化する社会的認知がまだまだない (河内)

## ■ミニ研修会(換気設備勉強会)報告



(7月25日 松下設備システム㈱岐阜社にて) 換気設備勉強会を21名で行いました。実務に役立つ具体的なお話をいただき 質疑の時間には活発な意見がだされました。

## ◆研修会に参加して

7月1日より施行された、改正 建築基準法のうちの機械設備設置に関する研修会に参加しました。設計者の判断(予算・部屋の扱い等)でいろいろな選択枝があり、機械の種類も充実しているようでした。又、具体的な事例も紹介され、意義のあるものでした。

ただ、自然素材で造り、自然の風を取り入れようとする住宅にも、機械設備設置が義務付けられるのかと思うとCO2削減が叫ばれている今、少々矛盾を感じつつ帰路に着きました。最後に研修会担当の堀さん、ありがとうございました。

飯沼あい子 記

## ■平成15年度(東海北陸ブロック会後期)

岐阜大会について

日時：平成16年2月28日(土)～29日(日)

会場：グランヴェール岐山

日程：28日

12:00～ 受付

12:30～ 開会式(青年委員会と合同)

13:00～ ブロック事業発表(石川県)

15:00～ 見学会及びワークショップ  
(青年委員会主催)に参加:

18:30～青年委員会と合同)

29日

8:00～ブロック事業委員会

9:00～運営委員会

9:00～ワークショップに参加ブロック事業

委員会および運営委員以外の方はワークショップに参加  
大会両日は、オブザーバーとして、多数の女性委員の参加・協力をお願いいたします。

## ■編集後記

長い梅雨があけるとともに猛暑がやってくる！紫外線のこわ～い季節ですね。化粧品も高くて手が出しにくいので、夏は安い化粧水でたっぷり使おうかと試行錯誤しています。皆様も充分お気をつけ下さい。

さて、新たな女性委員会の発足となりました。毎回、らくだの編集を行い、広報文章が必要として頂けているのか？という点は少々不安でもありますが、少しでも参加することに意義があると続けてきました。普段の会議も和気あいあいとして、雑談も‘なるほど’と思う話題で満載です。これを機会に‘たまのひととき会議’と一緒に参加して下さい方をお待ちしております。

より充実した内容となるよう、皆さんからの投稿をお待ちしております。(商品紹介もよろしく)

なお、編集参加問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。(岩佐)

(社)岐阜県建築士会

岐阜市司町1番地 岐阜総合庁舎3階

TEL 058-266-5786 FAX 058-266-6867

<http://homepage2.nifty.com/aba-gifu/>

Eメールアドレスkensi578@juno.ocn.ne.jp

女性委員会担当まで宜しくお願い致します。

